

早いもので、新宿・柿傳の茶室にて、神崎えんさんに舞って頂く鑑賞会も六回目を迎える事となりました。これも偏に皆様のお陰と思っており、心より厚くお礼申し上げます。

さて、今回は、残念ながら昨年四月一日に鬼籍に入られた林屋晴三先生を偲び、林屋先生がいつかはご自身で舞いたいと仰っていた「黒髪」を皆様にご覧頂きます。

表の写真は、平成二十八年九月、茶の湯同好会茶会で林屋先生が設えられた柿傳・残月床の情景です。林屋先生ご自身で「一期」と認められ、前には新進気鋭の若手陶芸家、和田的さんの白磁のオブジェを置き合わせられました。

今回も、えんさんの装束は、本舞台通りで、衣擦れの音が聞こえる至近の空間で舞の世界観を味わって頂ければと存じます。「黒髪」の舞と合わせ、渡辺保先生(日本芸術院 会員)による解説と、私も林屋先生を偲び、謹んで添釜をかけさせていただきます。下記の通り、ご案内申し上げますので、ご知友お誘い合わせの上、行く春のひと時をごゆるりとお過ごし下さいませ。

柿傳ギャラリー店主 安田尚史

- ・日時 平成30年3月31日(土) 14時の会 / 17時の会
※ 柿傳6階「古今サロン」に開会15分前までにご参集ください。所要時間1時間程度です。
- ・会場 新宿 京懐石 柿傳 (かきでん)
東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビル TEL 03-3352-5121
JR新宿駅中央東口・新宿東口駅ビル「ルミネエスト」すぐ隣
- ・会費 12,000円(税込) ※ 当日の会場受付にてお支払い下さいませ。
- ・内容
 - 受付とお呈茶: 6階「古今サロン」
 - 渡辺 保氏(日本芸術院 会員・演劇評論家)による解説: 9階茶室「残月」
 - えんの舞「黒髪」: 9階茶室「残月」
- ・お呈茶 柿傳ギャラリー店主 安田 尚史による薄茶一服もお楽しみ頂けます。
13時~17時まで、6階「古今サロン」にて
- ・お食事 特別松花堂弁当・煮物椀付 5,000円(税込)
会費とは別料金になりますが、柿傳8階椅子席にて、舞の会・特別松花堂弁当をご用意しております。ご予約制とさせていただきますので、お召上がりになる時間と人数をお知らせ下さいませ。もちろん、通年のコースメニューもご用意しておりますので、どうぞお気軽にお申し付け下さい。



神崎えん (地唄舞 神崎流 四世家元)

父である三世宗家 秀珠の膝下にて、二世宗家 神崎ひでにも師事、昭和58年よりは武原はん師にも師事を受ける等、地唄舞一筋に打ち込む。

平成11年には「第30回日本舞踊批評家協会賞新人賞」を受賞。同年、四世家元を襲名。神崎流地唄舞研究会を継承し、主催する。

昭和56年より毎年、「えんの会」の公演を行っている他、平成23年には、パリの日本文化会館にて公演を行うなど、日本の伝統芸能である地唄舞の伝承、発展に尽力している。

地唄舞とは

日本の古典舞踊には「舞」と「踊」があります。「舞」は「能」の動きにも見られるように、回転、旋回する動きを指します。「踊」は解放的に跳躍する動きを呼びます。

この「舞」を座敷で、三味線音楽である地唄を伴奏として舞うのが「地唄舞」の初期のかたちでした。

神崎流は、初代が大坂から東京に移り創流、その後四代目の神崎えんまで引き継がれ、ただ一つ東京で育まれて来た地唄舞の流儀です。

第六回 えんの舞 in 柿傳 お申込用紙

FAX 03-3350-5111

下記をご記入の上、3月26日(月)までに、切り取らずに上記番号までFAXをお送りいただくか、お電話【03-3352-5121】にて、柿傳までご連絡を頂ければ幸いです。皆様のお申し込みをお待ちしております。

ご芳名	
お電話番号	
メールアドレス	
ご希望の会	14時の会 / 17時の会
特別松花堂弁当 お一人様 5,000円	要 (時 名様) ・ 不要